

全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会 島根県男子ホッケーチーム 優勝!!



▲仁多中9人、横田中6人で構成された島根県男子ホッケーチーム

11月11、12日に福井県で開催された第18回全日本中学生都道府県対抗11人制ホッケー選手権大会において、仁多中学校・横田中学校からの選抜選手で構成された島根県男子ホッケーチームが2年ぶり5回目の優勝を飾りました。

今大会は全ての試合で接戦となり、滋賀県との決勝も一旦同点に迫いつかれましたが、勝ち越しの1点をもぎとり2対1で勝利し、チームの底力を見せつけました。

14日に横田コミュニティセンターで行われた優勝報告会には、多くの町民が訪れ祝福しました。石田勉弥主将は、「試合では自分たちのホッケーができた。このチームで戦うことができてよかった」と感想を述べ、これまでの応援に対して感謝を伝えました。

第22回中四国中学生選抜剣道大会
鍛錬の成果を競い合う



▲選手宣誓(左から横田中・渡部祐哉さん、仁多中・堀江初音さん)

剣道の普及と強化を目的に、平成8年から本町を会場に開催されている中四国中学生選抜剣道大会が12月3日に町民体育館で開催されました。

今年は、中国・四国地方の各県から男女合わせて48チームが出場。本町からは、仁多・横田の両中学校の男子チーム、女子チームがそれぞれ出場し、日頃の鍛錬の成果を競い合うとともに親睦を深めました。



▲12月2日には錬成大会(練習試合)を開催

第67回仁多郡駅伝競走大会
町内から8チームが参加



▲スタートした第1区の選手

11月19日、仁多郡駅伝競走大会が開催され、第1部(支部対抗)に8チーム、第2部(一般参加)に4チームが参加し、阿井から亀嵩までの6区間25.8kmで健脚を競いました。

阿井コミュニティセンター前を号砲とともに12人の選手が勢いよく出発し、三沢、布勢、三成、亀嵩を通るコースをチームの襷でつなぎました。

この日は、近くの山々が雪で白くなる程の冷え込みで、選手らは低い気温に苦戦しながらのレースとなりましたが、区間新記録4つが生まれました。

大会結果	第1部(支部対抗)		
	優 勝	三成支部	(1時間29分26秒)
	準優勝	布勢支部	(1時間34分50秒)
	第3位	阿井支部	(1時間36分15秒)
	第2部(一般参加)		
	優 勝	雲南三掛吉	(1時間31分8秒)
	最優秀選手		
	原 一智選手	(三成支部)	



▲鉬出しの様子



▲▼参加した児童たち



**先人たちの知恵を学ぶ
小学生たたら体験学習**

11月29日から12月1日にかけて行われたたたら体験学習に、町内の小学6年生を中心とした児童120名が参加しました。この体験学習は、ふるさと学習として平成16年から教育委員会と各小学校でつくる奥出雲町文化体験実行委員会が日刀保たたら協力を得て毎年行っており、今年で14回目となります。

初日に奥出雲たたらと刀剣館の見学を行い、2日目は、島上小学にある古代たたら体験学習工房

において、砂鉄と砂を選別する鉄穴流しや粘土で炉を築くなど、たたら操業に向けて準備をしました。最終日、8時20分に初種と呼ばれる最初の砂鉄を炉に入れたあと、児童が交代でふいごを動かし、砂鉄と木炭を交互に投入する作業を8時間続けました。最終工程の鉬出しでは、参加児童が見守る中、代表の児童9人が道具を使って炉を少しずつ壊しました。炉の底で真つ赤に焼けた鉬がみえると、周囲からは驚きの声があがりました。鉬が冷却され、量りに乗せると完成を待ちわびた児童が駆け寄り、鉬と重量を確認していました。

今回の体験では、砂鉄116kg、木炭177kgを使用し、過去最高の34kgの玉鋼を含む鉬が完成しました。参加した児童は「体験を通して、みんなで協力することの大切さを学んだ」「たたらがあるから、現在の仁多米、奥出雲和牛、棚田があることを生活の中で意識していきたい」と感想を語りました。

また、指導を行った日刀保たたらの木原明村下は「たたら体験学習を通して郷土を愛する心を学んだと思います。この学びを大切にしてください」と児童に語り掛けました。

奥出雲町文化体験実行委員会が2017年度第48回博報賞日本文化理解教育部門において文部科学大臣賞を受賞しました。

博報賞は、公益財団法人博報児童教育振興会が実施し、子どもたちに対する優れた教育活動に贈られる賞です。また、本町が受賞した文部科学大臣賞は、博報賞5部門の受賞者の中から、特に奨励に値する活動に贈られるものです。

この度の受賞が子どもたちのふるさとを愛する心や誇りに繋がっていくことを願います。



▲受賞式の様子(提供:博報児童教育振興会)

**たたら体験学習が
2017年度博報賞を受賞**